

# 霊水と共に

発行 法華寺  
No.29  
2025.3  
河南町加納 247  
☎0721933023

まいてら法華寺

検索

寄り添いの寺 法華寺

検索

## 四月 開山忌法要です

寺院が建立されることを「山を開く」と言います。日隆聖人は、全国で九つのお寺を開かれました。その中でも有名な寺院は、織田信長公が宿にしていた本能寺や、尼崎の大本山本興寺です。その日隆聖人が、楠公の戦の慰霊で河内を訪れた際に、日照りの村を救ったことで、當山が開かれました。

その日隆聖人の一代絵伝は、當山本堂に掲げてありますが、聖人のお誕生から、ご成長、出家。学問と修行、ご功績やご遺徳の数々を記してあります。聖人は至徳二年（一三八五年）、越中（富山県）の武将、桃井家の次男として、お生まれになりました。十歳の時、父親が病で亡くなり、兄が家督を継ぐと、仏門に入る決心をされ、仏道修行の後、法華経を深く学ぶため十八歳で、京都で学ぶことを決意されました。

（聖人のご生涯は、以後寺報で随時掲載いたします）



## 「よき先祖」になるということ

「グッドアンセスター」という言葉があります。「よき先祖」または「よき祖先」という意味です。我々日本人は、ご先祖様を「今ある自分の命をいただいた存在」、また「あの世から我々を見守って下さる存在」として、大切にお祀りしてきました。また、直接のつながりがなくても、今の日本があるのは、何世代にもわたって国を守り、国に尽くしてくださった数えきれないほどの先人・先祖の方々がおられることも自明の道理です。

さらに、視点を変えて、百年後、二百年後に生まれくる子供達から見ると、今生きている我々は「その子たちの先祖・祖先」になります。その子供たちから感謝される存在となり、「ご先祖さまのおかげで、今の自分たちがある」と言われるなら、それは、とても大切に意味深いことです。反対に、後の世代の人々から、「ご先祖さん達のせいで、ひどい世の中になってしまった」となりたくないものです。

## お寺をつないでくださった人々

開基 日隆聖人から、歴代ご住職、また、何百年にわたる檀信徒さまのお力によって、本堂始め、各お堂や境内が整備、維持され、五百年十年の法華寺の歴史が続いております。一昨年以来の修復「番神堂・ご尊像」も、数百年後にも人々に尊ばれるものとなるでしょう。

お寺にとっての数多くの「グッドアンセスター」に、心から感謝しております。境内の樹木、参道の石段ひとつひとつも、大切な存在です、今後何を維持し、何を伝えるのか、工夫が必要な激動の時代でもあります。しかし、どの時代、どの場所でも「仏の教え」「神仏の存在」は尊く、不変であると思っています。



境内にある日隆聖人直筆を彫り込んだ題目塔です  
(室町時代)

江戸時代初期、法華寺を支えてくださった大阪城代、石川総長公のお位牌です  
(本堂祀)

